

=====
S T B J ニュースレター(NO.8)
=====

明けましておめでとうございます。

平素より、ストップ結核パートナーシップ日本にご理解、
ご協力頂きまして有難うございます。

本年も宜しくお願い申し上げます。

S T B J では、個人会員の皆様とのコミュニケーションを
活発にしていきたいと考えております。

メールアドレスをお持ちの皆様に S T B J の活動を
ニュースレターとしてご紹介させて頂いています。

■□■□■□■□■□■□■□

2011 年 11 月～2011 年 12 月

S T B J 活動報告

■□■□■□■□■□■□■□

= 第 5 回 年時総会を開催 =

【2011 年 11 月 28 日】

水道橋ビル 5F

理事会 17 : 00 ~ / 総会 18 : 00 ~

理事会の後、総会が引き続き行われ、参加者は約 30 人。

平成 23 年度活動方向報告（資料 1）と平成 24 年度事業計画（資料 2、3）

が承認され、人事（新大場昇監事就任について。）も了承されました。

特別講演は「BCG の歴史、結核免疫、新結核ワクチン開発の状況」について

日本ビーシージー製造（株） 中央研究所 所長 山本三郎先生

の講演がされました。題名の通り、ワクチンの歴史から、

最近の DNA ワクチン、治療ワクチンまで幅広く説明がありました。

詳細は、STBJ のホームページに当日使われた、

パワーポイントが載せてありますのでご参照ください。

懇親会には、濱田議員、武見敬三さんほか、パートナーの企業や、

ボランティアなどが参加され、ワインなどの飲み物とともに、

来年の事業計画などを話し合い活気のあるものでした。

参考 : <http://www.stoptb.jp/>

＝ストップ結核パートナーシップ日本推進議員連盟総会開催＝

【2011年12月21日】

10:00～11:00

参議院議員会館 地下1階 B103 会議室

- ・平成24年度結核対策関連予算内示状況についてヒアリング
(厚労省、外務省)
- ・日本 NGO 連携無償資金協力贈与契約による
フィリピンとザンビアにおけるプロジェクトの報告
(結核予防会)
- ・結核・エイズ活動家 ウィンストン・ズル氏 追悼
(黙とう) 安倍信三元首相や川田龍平議員から
追悼メッセージがありました。

＝アクションプラン フォローアップ会合の開催＝

【2011年12月20日】

STBJ が改訂案 (STBJ の常任理事会 10/5 で承認) を作成し、それを元に、外務省、厚労省、JICA、結核予防会が、追加。それらを外務省がまとめ改訂版を作成、合意された。

(2011年12月フォローアップ会合)

<改訂の方向性>

検査施設の拡充、専門的な知識を必要としない革新的な検査の導入や、保健システムの強化が新グローバルプランでは、強調されている。

また、前回のフォローアップ会合 (2011年4月) では、

二国間協力の拡大と強化の必要性が議論され、同意された。

今回のアクションプランの見直しは、それらを踏まえたもの。

また、アクションプランは、計画の実施中であり、

現時点では活動計画を大幅に改訂は行われない。

<主な改訂項目>

1. 二国間協力の強化
2. 診断体制の強化、
3. 調査・研究の支援

* 「参考」にある数字は、現行のものに加えて、最新（2011）の WHO REPORT の数字をのせる。
但し、2006 年の統計と基準が異なり、
死亡者数に、HIV/AIDS 合併による
TB 死亡者が含まれていない旨、明記。

参考 : <http://www.stoptb.jp/>

=啓発活動=

【2011 年 11 月 10 日】

世界糖尿病デー、糖尿病週間にむけたプレスリリースの発行

糖尿病の人は結核にかかりやすく、かかると重症になりやすい事の周知。
糖尿病、結核の医療関係者が、結核、糖尿病の間の
悪影響を重大な課題として再認識し、糖尿病、結核の医療と
管理のための協働体制がとられることが望まれています。
糖尿病患者自身も、糖尿病の人は結核を始め感染症にかかりやすく、
しかも、ひとたび発病すると急速に悪化しやすいことを
十分認識する必要があります。

【2011 年 11 月 12-13 日】

アフリカンフェスタ 2011

外務省主催のイベントが日比谷公園で行われました。
今年も公益財団法人と一緒にブースを出展し、
活動の紹介および募金活動を行いました。
資料配布 リーフレット、チラシ、団体概要(各 500 部)

=外部会議への参加=

【2011 年 11 月 18 日】

第 100 回 GII/IDI に関する外務省/NGO 懇談会 100 回記念シンポジウム

16:00～19:00

JICA 地球ひろば講堂

・日本政府と NGO の政策対話、実現の立役者たち

(ジョイセフ 石井澄江専務理事、堂本暁子前千葉県知事、
服部則夫 オフィス・ハットリ代表、前 OECD 日本政府代表部大使/元駐ベトナム全権大使、
原ひろ子 女性と健康ネットワーク副代表)

・国際保健における日本政府と NGO の政策対話の将来

(ジョイセフ 石井澄江専務理事、

稲場雅紀(特活)アフリカ日本協議会 国際保健分野ディレクター、

クリフтон・コルテス UNDP アジア太平洋地域事務所 HIV/AIDS・保健・開発地域実施リーダー、

松浦博司 外務省国際協力局地球規模課題総括課課長、

モントリー・ペカナン タイ家族計画協会 PPAT 事務局長)

【2011年11月24日】

第100回 外務省 GII/IDI に関する外務省/NGO 懇談会

外務省中央 669号 15:00~

1. 国際会議報告

(1) 第6回 アジア太平洋リプロダクティブ・ヘルス/ライツ国際会議について

(2) 保健に関する国際連帯税 市民社会会議について

2. 世界ポリオ・デー関連イベントについて

3. GII/IDI に関する外務省/NGO 懇談会 100 回記念シンポジウムについて

4. 今後の国際会議

・家族計画に関する国際会議(セネガル)、

ICPD+20、UNFPA NGO-Youth(24歳以下対象、トルコ)

コンサルテーションについて。

・アフリカ地域エイズ・性感染症会議について(ADIS ABABA)

5. スタンドアアップ報告

6. 来年度予算、今年度補正予算について

1). 津波に関する予防の無償、機材供与など 42 億円。

2). 東北産品(工業製品、車いす)など無償 50 億円。

3). JPF1.95 億円、調査事務経費。4). 国際機関の経験を活かす 1 億弱。

日本の NGO 主管の予算は、内閣府であるのが基本である。

-----**☆-----**-----*-----**☆☆--*☆-----**☆

※このニュースレターの配信を希望されない方は

下記メールアドレスまでお知らせくださいませ。

kaiin@stoptb.jp

(担当 宮本/下谷)

-----**☆-----**-----*-----**☆☆--*☆-----**☆